

研究会活動も昨年度からは順調に進み、10月には久しぶりに交流会・懇親会も開催できました。本号では、関西支部から過去最多の発表があった「年次学術大会」と、「京都大学 iPS 細胞研究所見学会」を報告します。話題のコラムには「西成わが町」を特集、今号から新たに「関西の大学巡りシリーズ」(関西大学) もご紹介します。

1. 『第38回年次学術大会』速報

関西支部提案のホット 이슈「G会場：スタートアップと地域創生」には、大学、企業、団体から15件(他に全国から6件)の多数の発表と熱心な討議があった。発表者とテーマ名は、以下のとおりである。発表論文とスライドを掲載した『講演要旨集』(カラー版)を刊行し、支部HPにも掲載していますので、ダウンロードして、是非ご一読ください。

- ・1G01 西原一嘉、三木基実、大槻眞一：
「スタートアップと地域創生」
- ・1G02 坂野 聡：「大阪大学におけるスタートアップ・エコシステム拠点形成の取組み」
- ・1G03 井端雅一：「イノベーション創出を目指した大阪公立大学での産学官連携 URA センターの取組み」
- ・1G04 小竹暢隆：
「スタートアップ支援システムと地域創生」
- ・1G06 洪 詩鴻：「中国のカーボンニュートラル対策と新エネルギー産業振興」
- ・1G07 磯貝富夫：「インドにおけるスタートアップ」
- ・1G08 武田全史：
「スタートアップ企業 CUBE EARTH について」
- ・1G09 山脇雅則：「ベンチャー支援」
- ・1G18 谷口邦彦：
「地域資源を糾合した地ビール事業の全国展開」
- ・2G01 苗村昭夫：「インフラメンテナンスのための“電磁振動転圧機”の開発」
- ・2G02 落合平八郎：
「生き残りをかけた大阪発ベンチャー企業の戦い」
- ・2G03 西口 泰：
「スタートアップ事業の現状と今後の考察」
- ・2G04 清水雅士：「大阪発バイオベンチャーへの“バイオものづくり”への挑戦」
- ・2G06 岡田紀代蔵：
「GHG 削減戦略は日本の海事産業発展の好機」
- ・2G07 横尾 保：「人、家畜の糞尿を肥料に変え国民を豊かにする方法」

2. 『京都大学 iPS 細胞研究所見学会』

(エネルギー環境支部分科会 12月6日実施)

「京都大学 iPS 細胞研究所 (C i R A : Center for iPS Cell Research and Application, Kyoto University)」を訪問した。国際広報室の(農博)和田濱裕之氏より研究所の概要説明を受けた後、2班に分かれて、iPS 細胞技術を使った再生医療、病気の再現、創薬の開発の研究現場と設備を見学した(写真)。



iPS 細胞研究所ロビー

ノーベル賞研究成果を生み出した名誉所長の山中研究室も覗かしていただき、研究雰囲気を肌で感じる事ができた。

終了後、ベトナム料理店(出町柳)で交流会も実施した(写真)。



3. 研究会での参加者の声(感想文)紹介

①第185回研究会(9月15日)

「専門職大学紹介、電磁鋼板の特許侵害訴訟事例」

・高度な職業人を養成する新しいタイプの専門職大学は、専門学校、高専などとの差別化と国の支援が重要と思う。

・特許は自社技術を守り、活かす重要な制度で興味深かった。色々な業界の特許侵害訴訟の話も聞きたい。

②第 186 回研究会 (10 月 10 日)

「産・学の創業の現状と展望」(交流会再開、下写真)

・データ分析、創業標的など基礎研究と我々の疾病との橋渡しの研究で、生成 AI の活用が進んでいることが分かった。

・多くの基礎疾患を持つものとして心強く感じた。



③第 187 回研究会 (11 月 11 日)

「インドの最新情報と激動の世界情勢」

・インドの実情は目からうろこであった。ソフトウェア (IT 産業) に強いインドと、ハード



に強い日本が組めば、モノづくりが強化されると思う。

・2024 年は、世界で重要選挙が続く(台湾、ロシア、韓国、インド、米国、・・・)、政治、経済、軍事の大きな転換時機のように思う。

④エネルギー環境支部分科会 (12 月 6 日)

「京大 i P S 細胞研究所見学会」: 前掲

⑤188 回研究会 (12 月 23 日)

「電池イノベーション、デジタル製造業」

・電池開発の基礎と将来展望がよくわかった。
・両報告とも中身の濃い報告で、モノづくりの基礎が理解できた。

⑥189 回研究会 (1 月 29 日)

「新春講演会: 関西経済、自然との共生」

・関西経済の現状と課題、とくに中小企業施策がよくわかった。

・有機物は燃やしたら殆ど空気 (エネルギー) に変換できる、これからは農業の時代、“植育”は重要と思う。

・遺伝子組み換え技術で生まれた「青いバラ」の成功の裏には、産学連携の安全性確認への取り組みを知った。

4. 会員からの季節便りー「初春の関学」

会社時代から美術部に属し楽しんでいましたが、家の近くの「初春の関学」があまりにも美しいのでスケッチしました。



西宮市展入選作品「初春の関学」

た。2023 年度西宮

市展に応募したところ入選しました。夫婦で絵画を楽しんでいますが、今回は同時入選でした。(高橋渉)

【関西の大学めぐりー関西大学の古墳壁画ー】

奈良県明日香村の「高松塚古墳壁画」は、1972 年に発見、彩色壁画調査に文学部助教授の網干善教先生と学生が参加したことを記録に残すために、2008 年、博物館の前に「高松塚古墳壁画再現展示室」を開室した。壁画は陶板で作られ、発見当時の色彩を再現した。平日、開館時間内での見学が可能である。



関西大学博物館



古墳壁画展示室



石室壁画(西女子群像)

関西大学教授 斎藤了文先生のご紹介

5. 関西支部からのご連絡

・研究・イノベーション学会組織の法人化を準備中です。

6. 編集後記

去年は、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことにより、関西支部研究会も対面の開催が行われるとともに日本設計工学会関西支部の協力を得て、会場と Zoom 配信を同時に行うハイブリッド方式で開催されています。研究会毎に通信状況が異なり、色々の不手際もあるものの、多数の方の参加を得ており、これからも極力継続したいと思います。(三木基実)

※「読者の声」窓口: kansaiinobe.koike@gmail.com

【発行】研究・イノベーション学会関西支部

<https://jsrpim-k.jp>

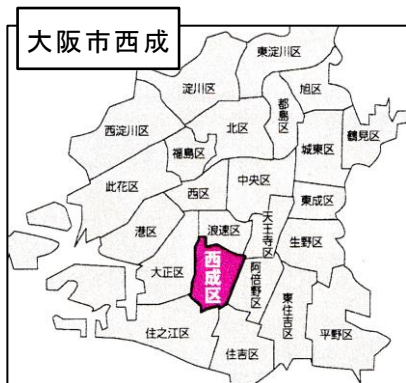
【別紙】話題のコラム

「(寄稿) 西成わが町」

上村良次

西成区は、2025 年大阪・関西万博の年に区政 100 周年を迎えます

(図)。こうしたことやいくつかの出来事がきっかけになり地元西成区の歴史を調べましたので、その一端を紹介させていただきます。



まず、西成(区)の名前は、奈良時代の元明天皇の和銅 6 年(713 年)に、“郡郷の名は好字であらわし、かつ二字を用うべし(好字二字令)”とされたことによって、それまでの難波小郡が「西成郡」に改められた歴史のある名称です。

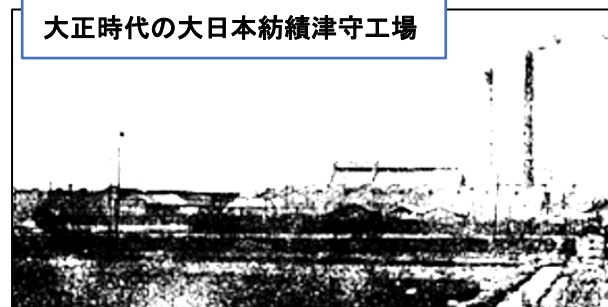
西成区の東部にある住吉街道(紀州街道の一部)には、豊臣秀吉がお茶を愛でた天下茶屋跡や、秀吉が淀君安産を祈願した子安石が祭られている天満宮(写真)があります。江戸時代には、住吉街道は紀州や岸和田藩などの参勤交代による大名行列の道で、多数の家並みが続き、天下茶屋百軒と呼ばれていました。天満宮には江戸時代に作られた鳥居や灯籠が見られますが、この地域の当時の経済力の大きさを表すものと思われます。この近くには、江戸時代の有名人の墓石がある安養寺、明治天皇が 2 度立ち寄られたことを残す「明治天皇駐蹕(ちゅうひつ)遺址」



住吉街道から望む天満宮

碑もあるなど由緒ある地域であることがわかりました。

西部には木津川が流れ、昔、大阪市が「東洋のマンチエスター」と呼ばれた時代、その一翼を担う大日本紡績(現ユニチカ)津守工場が立地していました。この工場は、日本最古のコンクリート造の工場であり、最盛時には約 4,000 人の従業員が働いていましたが、空襲で焼失しました(写真)。



女子工員が新世界へ行く通路として開かれた鶴見橋商店街は、東西方向では日本一長い商店街と言われ今も賑わっています。現在、この地域には多くの企業や工場が立地していますが、民間主導で作ったナニワ企業団地には、学術大会で講演された梅南鋼材(株)堂上克己社長の本社があります。

中央部には、国内でも第 1 級のオーケストラである大阪フィルハーモニー交響楽団の練習場で関西の音楽関係者に利用される「大阪フィルハーモニー会館」(下写真)、その隣には関西の多くの団体が利用する「西成区民センター」があり、生活文化の拠点になっています。

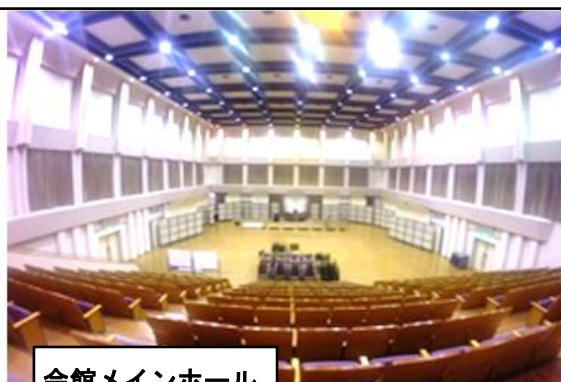
2013 年から始まった「西成特区構想」は、区民・区役所・学識経験者(民官学の連携)の取り組みで大きく改善し、あいりん地域も含んだ「新今宮エリア魅力探検ツアー(まち歩き)」も行われています。12 月 2 日に NHK 朝のニュースでも紹介されました。

また、西成区は芸人の住む町でもあり、五代目桂文枝さんは区内の玉出におられ、内弟子であった六代目桂文枝(桂三枝)さんは、西成区の PR 大使です。

そんな西成区に いらっしゃーい！



大阪フィルハーモニー会館



会館メインホール